

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690300021		
法人名	株式会社ユニマットそよ風		
事業所名	京都壬生ケアセンター (そよ風 グループホームすみれ)		
所在地	京都府京都市中京区壬生天池町24		
自己評価作成日	平成24年3月15日	評価結果市町村受理日	平成24年6月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2690300021&SCD=320&PCD=26
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成24年4月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「笑顔で過ごす」をユニットの理念にしています。スタッフ同士の関係性が良く、相談や注意を忌憚無くこなえています。その環境から利用者様、スタッフ共笑顔の多いユニットになっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同じ建物内にデイサービスを併設している当該ホームは、開設5年目を迎え買い物や散歩時には挨拶を交わしたり「あんしんサポーター講座」を開催するなど地域との関わりも少しずつ深まりつつあります。毎年開設記念日には地域住民や家族等多くの方に参加してもらい、イベントを行っています。「1日1回笑顔で過ごします」と理念に謳っており、職員は利用者が日々ゆったりと笑顔で暮らせるようにと利用者本位のケアに努め笑顔のある生活に結びつけています。習字やスポーツ観戦等、趣味や好きだった事など自己能力を引き出し、出来ることにチャレンジしながら生き甲斐へと繋げています。また、何か検討課題が挙げればカンファレンスを行い、職員全体で取り組む協働体制が築かれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼時に「そよ風憲章基本理念」唱和して職員は理念の共有を実践している	法人の理念を基に職員で話し合っって作った理念「1日1回笑顔で過ごします」をホーム内に掲示しています。利用者、職員共笑顔が見られているか、日々の会話や会議の中で確認し振り返る機会を持っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物や散歩の時に挨拶を交わしている	自治会に加入しており、回覧板が届き、地域行事の参加等について話し合いを持っていますが、参加するには至っていません。デイサービスを訪問する小学生と握手を交わしたり、開設記念パーティには30名の地域住民の参加があり交流を図る機会となっています。認知症安心サポート講座も開催するなど、地域との交流に努めています。	ホームでの行事にだけでなく、地域の行事にも積極的に参加され地域の方との交流を更に深めていかれてはいいかがでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解や支援のために、地域の人々や利用者様家族を対象とした「あんしんサポーター講座」を開催している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、地域自治会会長、地域包括支援センターの職員をメンバーとし2ヶ月に1回実施。会議での意見を参考にし、サービスの向上にいかしている	会議は、自治会長や家族、地域包括支援センター職員の参加の下、2ヶ月に1回開催しています。開催については機関誌を通して家族にも周知しています。ホームからは状況報告や事故報告を行い、参加者からも多くの意見をもらい有意義な会議となっており、出された意見は職員会議で検討し次回の運営推進会議で報告をしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	わからないことなどについて、市の担当者に相談し、助言をもらうようにしている。事業者集団指導へも参加している	行政には運営推進会議の議事録や、事業所の機関誌を直接届け、ホームの状況や取り組み等を知ってもらうよう働きかけています。また疑問点があれば電話等で相談をしアドバイスをもらうなど協力関係が構築されるよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待防止委員会を2ヶ月に1回開催し事例検討や疑問について話合っている	法人主催の研修会に参加したり併設の事業所との身体拘束・虐待防止委員会の中で事例検討等の勉強会を行い、議事録や資料、口頭により伝達しています。出入り口は施錠されており、職員は利用者が施錠による拘束感を感じないよう、外気浴の機会を多く持つなどの工夫をしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止委員会を2ヶ月に1回開催し事例検討や疑問について話合っている		

京都壬生ケアセンターそよ風(すみれ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	契約時に必要な方には後見人制度についてお知らせするようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず読み合わせて理解・納得を図っている。契約時に十分な時間をかけて話し合っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置やアンケート、運営推進会議にて家族様からの意見をいただき、ご利用者様からは全体会議やケアカンファレンスでサービス改善に向けて話し合っている	アンケートによる満足度調査、運営推進会議、面談時、電話等で意見や要望を聞くようにしています。職員の名前と顔がわかりにくいので顔写真を貼ってほしいという要望があり壁に掲載するなど、カンファレンスで話し合い速やかに対応しサービスの改善に努めています。結果については家族にも報告しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や個人面談または、日頃から声掛けし意見を聞いている	フロア会議や人事考課の個人面談時に職員の意見や提案を聞くようにしています。日常的にも意見を出しやすい環境にあり、休憩時間や行事、地域交流についての提案があり職員間で検討し運営に反映させています。内容によっては管理者、センター長を経由して法人全体で検討されることもあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談の場を作り、職員の話聞いてしよく場環境の整備に取り組んでいる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議で研修会を実施している。その他、事業所以外の各種研修会へ参加して職員のスキルアップを推進している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会、中京ケアマネージャー施設懇談会に参加してネットワーク作りをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人からの要望や様子をもとに、スタッフで話し合いケアに繋げている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時に不安なことや要望を伺い、同視点で考えより良い方向へいくように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人からの様子や訴えや家族様からの情報から必要としているサービスを提供している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	より良い生活のためにご家族様に色々とお話を聞き情報収集に努め、現在の		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様から話を聞きご本人のより良い生活のためにご家族様から、色々な話を伺うようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の馴染みを理解して、馴染みと係わりのあるケアを提供するようにしている	知人の訪問時には居室でゆっくりと過ごしてもらったり、墓参りや電話の取り次ぎ等希望に応じて支援をしています。また習字やスポーツ観戦等、利用者の好きなことや趣味なども引き出し今までの楽しみ事も継続できるような支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さま同士の合唱レクや散歩、お誕生日会などの共通の場を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お見舞いやお花を送っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人ひとりの生活習慣を大切に出来ることを生活に活かせるようにしている	初回のセンター方式のアセスメントシートから生活歴等を知り、日々の会話から希望や意向を把握するようにしています。把握の困難な人は家族から聞いたり、本人の表情や行動から汲み取り、本人の思いを把握するよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の活用やアンケートを活用している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人に合った生活リズムを大切にしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の訴えや行動からご本人の思いを汲み取り計画に反映させている	アセスメントや家族、利用者の意向に沿った介護計画を作成しています。計画に沿ったケアができていないか日々モニタリングを行い、3カ月毎にカンファレンスを実施し評価、見直しをしています。半年に1回再アセスメントを行い、状況に応じて計画の変更をし現状に即した介護計画となるよう努めています。また医師や看護師の意見を集約し計画に反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録、職員の連絡ノート等で情報共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出、外食などご本人、家族の希望に対しては体制の許す限り対応に努めている		

京都壬生ケアセンターそよ風(すみれ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ビューティーヘルパー、マッサージなどを提案し活用していただいている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期往診(2週間に1回) 体調不良時には協力医療機関へ連絡したり受診している	協力医とは24時間連絡が可能で、2週間に1回の往診があり、殆どの方が協力医に変更しています。今までのかかりつけ医の受診と専門医院への受診は、日々の状況を伝え家族が同行しており、家族を通して連携を図っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院のナースを連絡を密にしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の利用者様の状態把握に努め、ご家族様と情報共有を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設で看取りについて前向きに体制づくりを検討中	今までに、看取りの経験はありませんが、今後訪問看護を導入する予定であり、重度化し医療行為が発生した場合のことなど終末期に向けての話し合いを重ねています。ホームで出来る限り見ていこうと体制作りなどについても積極的に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に(年2回)実施している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼間、夜間を想定した避難訓練、消防設備使用訓練をおこなっている	消防署指導の下、年1回昼間想定で避難訓練を行ない消火器や散水栓の使用方法等の指導を受けています。事業所独自では夜間を想定して電話連絡の練習も含めて訓練を行っています。地域には声かけをしていますが、参加は得られていません。	運営推進会議時、避難訓練を議題に挙げ地域の人の協力が得られるよう呼びかけをされてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの人格を尊重し言葉掛けをおこなっている。プライバシーの保護について意識している	職員は法人主催の研修会に参加したり伝達研修を受け、一人ひとりの尊厳についての理解を深めています。特に日々の業務の中で言葉かけに注意を払っており、意識しながらケアにあたっています。不適切な言動があれば、注意し合ったり、時には管理者が直接注意することもあります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様のお話を傾聴し、その意思を尊重できるよう、また自己決定が困難な場合は出来るだけ汲み取れるように努力している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのその人らしい生活をご本人の希望に出来るだけ添えるようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利美容の支援をおこなっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳やランチョンマット用意など出来る範囲の手伝いをさせていただいている	法人で決められたメニューを基に利用者の好みを聞きメニューを決定し、食材の発注をしています。また季節感のあるメニューも取り入れています。ランチョンマットを敷いたり、お茶碗を拭く等、利用者のできる事に携わってもらっています。職員も話をしながら一緒に食事を楽しい食事時間となるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に1日の水分量出納を把握できるように記録し傾向も把握して支援に繋げている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回の訪問歯科にて口腔ケアの実施。日常ケアとして必要、状況に応じた口腔ケアをおこなっている。口腔体操も実施している		

京都壬生ケアセンターそよ風(すみれ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お1人おひとりに合わせトイレ誘導の時間を変えたり、トイレに行きたいとのサインを見逃さないようにしている	トイレでの排泄を基本とし、排泄チェック表でリズムを掴みトイレに誘導しています。適切な誘導を行うことで紙パンツから布パンツに移行するなど、下着の形態が自立に向かった例もあり、工夫をしながら自立に繋がるよう取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の排泄パターンを考慮し便秘気味の方には運動や水分補給等をおこなっています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴のタイミングを希望に合わせている 夜間入浴は出来ていない	毎日13時から夕方まで入浴の準備をしています。週3回を目処に希望があれば毎日でも入浴可能です。拒否傾向の人には、職員を代えたり言葉の掛け方に工夫をして入ってもらっています。ときには菖蒲湯を楽しむ事もあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの体調や気分、習慣を把握しながらおこなっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院の医師の指示のもと、服薬支援と症状の変化の確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自室掃除や洗濯物たたみ、食器拭きなど職員と一緒にこなしている。買い物、ビデオ、ゲームなど、個人に合わせた気分転換を支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外気浴は実施している。外出は買い物や外食を個別におこなっているが、実施回数が少ない。	日々の外気浴の他に散歩に出かけています。また個別に買い物や食事に出かけることもあります。初詣や花見等、季節に応じた外出も支援しています。	外出行事の時には家族に声をかけ、利用者と共に楽しんだり協力をしてもらうためにも参加を依頼されてはいいかがでしょうか。

京都壬生ケアセンターそよ風(すみれ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の希望時には近隣へ出かけたり、代行をおこなっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	実践されていない		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よく過ごせるように配慮している	毎日窓を開け十分な換気と温度管理を行っています。壁には季節感のある利用者手作りの作品が飾られています。2つのユニットを自由に行き来し、交流できるようフロアの間テーブルやソファを設置し、利用者が寛ぎながら談話できる空間を作っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士の相性を考慮して座席を配置したり、ソファの位置を変えている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望に添うようにしている	入り口に利用者直筆の表札や花の塗り絵を貼り、其々の居室をわかりやすくしています。使い慣れたテレビや鏡などを持ち込んだり、自慢のメダル、家族の写真等を飾り、居心地よく過ごせるよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	テーブル、椅子の配置に配慮している		